

著書紹介

著者自らが新刊を紹介します。

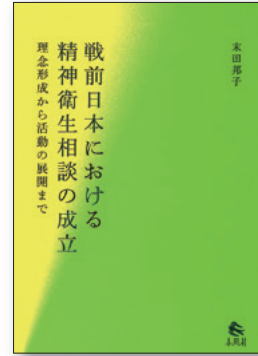


杉浦康平と写植の時代 光学技術と日本語のデザイン

創造表現学部・准教授・阿部卓也

- ▶ A5判 ▶ 488ページ ▶ 慶應義塾大学出版会
- ▶ 本体4,000円+税 ▶ 2023年3月31日発行
- ▶ 宇宙としてのブックデザイン

戦後日本のグラフィックデザインを牽引したデザイナー、杉浦康平。彼は写植という新たな技術といかに向きあい、日本語のデザインといかに格闘したのか。杉浦康平が日本語のレイアウトやブックデザインに与えた決定的な影響を明らかにする。



戦前日本における精神衛生相談の成立 -理念形成から活動の展開まで-

福祉貢献学部・准教授・末田邦子

- ▶ A5判 ▶ 210ページ ▶ 春風社
- ▶ 本体5,000円+税 ▶ 2023年2月25日発行

▶ 日本において精神病患者への相談に始まった専門相談は、どのような動きの中で「精神衛生相談」に変容し、それは誰が担い、どんな機能を持っていたのか。精神衛生相談の成立過程をたどり、特徴を明らかにすることを試みた研究書。

愛知淑徳大学
文学部 教育学科 教授

佐藤実芳

随

想

教育する心

准看護学校と連携した高等学校衛生看護科(昼間定時制)が宮崎県小林市にあることを知り、2013年秋に同市を訪問した。私はそこで、明るく元気に挨拶をしてくれる地元の小中学生に出会った。姿勢が良く、礼儀正しい児童生徒達の姿から、私は同市の教育に関心を持った。姿勢が良いのは、愛知県出身の教育者である森信三が提唱した「立腰」を、学校教育で取り入れていたからであった。「立腰」とは腰骨を立てる姿勢のことで、座禅を組むのと同様な効果があるとされる。小学校を訪問した際、1年生から6年生まで、私語もなく、居眠りもせずに落ち着いて授業を受けている様子に感動した。早速、本学の講義で1年間「立腰」を導入してみたところ、履修者から「授業に集中できる」、「健康になった」等の感想が寄せられ、それ以降毎年1年生の講義で実践している。



同市の小中学校では、全クラスに月1〜2回、読み聞かせのボランティアが訪問し、児童生徒の本に対する関心を高めている。飲食可能な図書館があるTENAMU交流スペースには、木のおもちゃで遊べる木育キッズスペースもあり、同市が目指す0歳から100歳までの異年齢交流が自然と行われている。経済格差が拡大し、災害や戦争の影響を受ける困難な時代の教育の在り方を、同市から学び、その知恵を授けられている。教育学科では、小学校及び特別支援学校の教員を養成している。私はこれから教員として学校教育に携わる学生に、困難な時代を生き抜く教育の在り方を伝えていきたい。